

# S I D R

## 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 6 巻第 30 号

第 30 週 ( 7 月 24 日 ~ 7 月 30 日 )

発行年月日:平成18年(2006年) 8月4日

発行:滋賀県衛生科学センター内  
滋賀県感染症情報センター

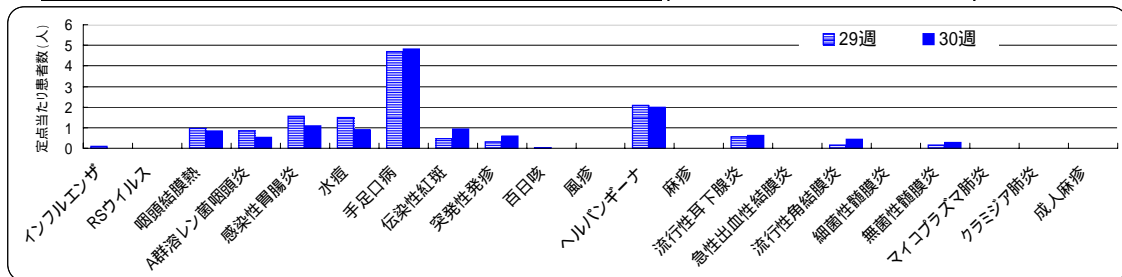
電話 077-537-3050 FAX 077-537-5548

### 今週の感染症発生動向

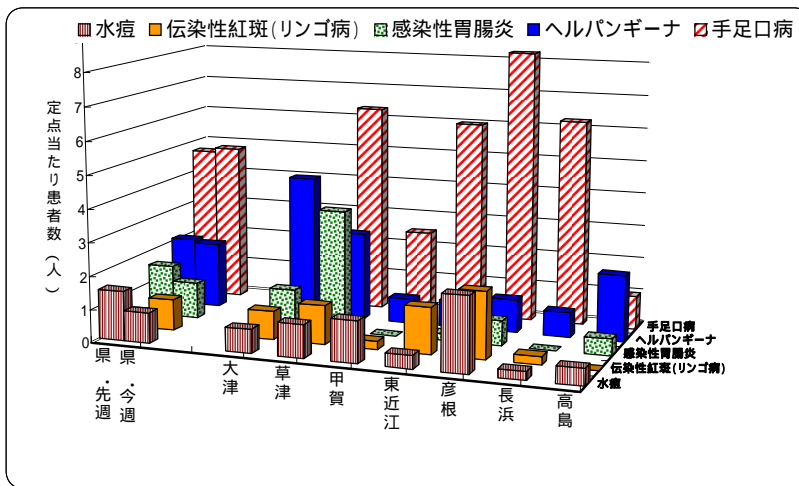
**腸管出血性大腸菌感染症の発生はさらに増加！  
咽頭結膜熱の発生は減少傾向**

定点把握の対象となる五類感染症の発生状況は、先週(7月17日～7月23日)の報告数よりやや少なくなっています。増加した疾患は手足口病、伝染性紅斑(リンゴ病)、無菌性髄膜炎等で、減少した疾患は咽頭結膜熱、水痘、ヘルパンギーナ等です。また、無菌性髄膜炎は先週と同様、長浜から報告されています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。全数把握対象疾患では、三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症2名の届出がありました。

#### 定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(前週との比較、定点当たり患者数)



#### 上位5疾患の保健所管内別発生状況(定点把握対象五類感染症、第30週、定点当たり患者数)



県全体における上位疾患の発生状況についてはグラフに示すとおりで、手足口病、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎、伝染性紅斑、水痘の順に多くなっています。手足口病、伝染性紅斑(リンゴ病)および水痘は彦根で先週よりかなり多くなっています。また、ヘルパンギーナは大津で多くなっています。

#### 腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26等)の予防について

滋賀県における発生状況は平成18年第30週現在18名の届出があり、昨年の同時期(届出者数6名)より非常に多くなっています。今後も引き続き発生予防に対する注意が必要です。性別では男性9名、女性9名となっており、保健所管内別では大津5名、東近江4名、草津3名、甲賀2名、彦根2名、長浜2名となっています。また、年齢別では0～9歳が5名、10～19歳が6名、20～29歳が5名、30～39歳が1名、60～69歳が1名となっています。

- 1. 十分な手洗いをする** 排便後、食事の前にはせっけんを使い流水で十分に手を洗う。
- 2. 調理時の注意**
  - 1) 食材などは、流水で十分に洗う。
  - 2) 加熱調理時は、食品の中心温度が75℃、1分以上となるよう十分に加熱する。
  - 3) まな板、包丁などの調理器具は、漂白剤や熱湯で消毒し清潔にしておく。
- 3. 飲食時の注意**
  - 1) 乳幼児、高齢者および抵抗力の弱い人は、なるべく生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにする。
  - 2) 調理した食品は、なるべく早く食べる。
- 4. 家族内の2次感染を防ぐ**

家族内に下痢などの症状を示す人がいる時は、

  - 1) 便を処理した後の手洗いを十分にする。
  - 2) 入浴時の混浴を避ける。
  - 3) トイレや入浴時のタオルの共用を避ける。

## 1) 全数報告の感染症(一類～五類)

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	報告数 (30週)	累積報告数		平成17年報告数	
			滋賀 (30週)	全国 (30週)	滋賀	全国 <sup>(*)1</sup>
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
二類感染症	細菌性赤痢	0	<sup>(*)2</sup> 4	229	<sup>(*)3</sup> 7	556
	腸チフス	0	0	49	0	50
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	18	1,494	12	3,567
四類感染症	E型肝炎	0	0	41	0	40
	A型肝炎	0	2	231	1	168
	オウム病	0	0	15	1	34
	デング熱	0	0	26	1	73
	マラリア	0	0	33	0	66
	レジオネラ症	0	6	249	3	276
五類感染症	アメーバ赤痢	0	6	418	5	680
	ウイルス性肝炎	0	0	141	2	277
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	91	2	147
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	4	76	0	60
	後天性免疫不全症候群	0	7	702	7	1,161
	ジアルジア症	0	1	53	0	81
	梅毒	0	3	353	0	555
	破傷風	0	0	55	0	114
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	44	2	65
	急性脳炎	0	1	100	2	180

- \*1:平成17年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。  
 \*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含みます。  
 \*3:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分3件を含みます。

### 全国における全数報告感染症の発生状況 - 第30週(7/24～7/30) -

一類感染症: 報告なし	四類感染症: A型肝炎 3例	五類感染症: 後天性免疫不全症候群 11例
二類感染症: 細菌性赤痢 6例	エキノコックス症 1例	バンコマイシン耐性
腸チフス 2例	レジオネラ症 15例	腸球菌感染 2例
コレラ 1例	五類感染症: 破傷風 4例	ウイルス性肝炎 1例
三類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 191例	梅毒 13例	アメーバ赤痢 14例
	急性脳炎 1例	ジアルジア症 2例

## 2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点\*から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。\*疾患により定点数は異なります。

### (1) 疾病別・週別発生状況(第25～30週、6/19～7/30)

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	25週		26週		27週		28週		29週		30週	
	(6/19～)	(6/26～)	(7/3～)	(7/10～)	(7/17～)	(7/24～)	26	27	28	29	30	
インフルエンザ	0.16	0.26	0.06	0.02	0.08	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	1.72	1.88	1.47	1.50	0.97	0.84						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.22	1.28	1.06	0.69	0.84	0.53						
感染性胃腸炎	1.50	1.03	1.09	0.97	1.56	1.09						
水痘	2.47	1.88	1.38	1.47	1.50	0.91						
手足口病	2.41	4.00	3.91	5.19	4.69	4.81						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.44	0.53	0.75	1.06	0.47	0.94						
突発性発疹	0.38	0.44	0.25	0.59	0.31	0.59						
百日咳	0	0	0	0.03	0.03	0						
風しん(三日はしか)	0.03	0	0	0	0	0						
ヘルパンギーナ	1.94	2.28	2.56	3.78	2.09	2.00						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.88	0.72	0.72	1.03	0.56	0.63						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0.57	1.00	0.71	0.86	0.14	0.43						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.14	0.29						
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

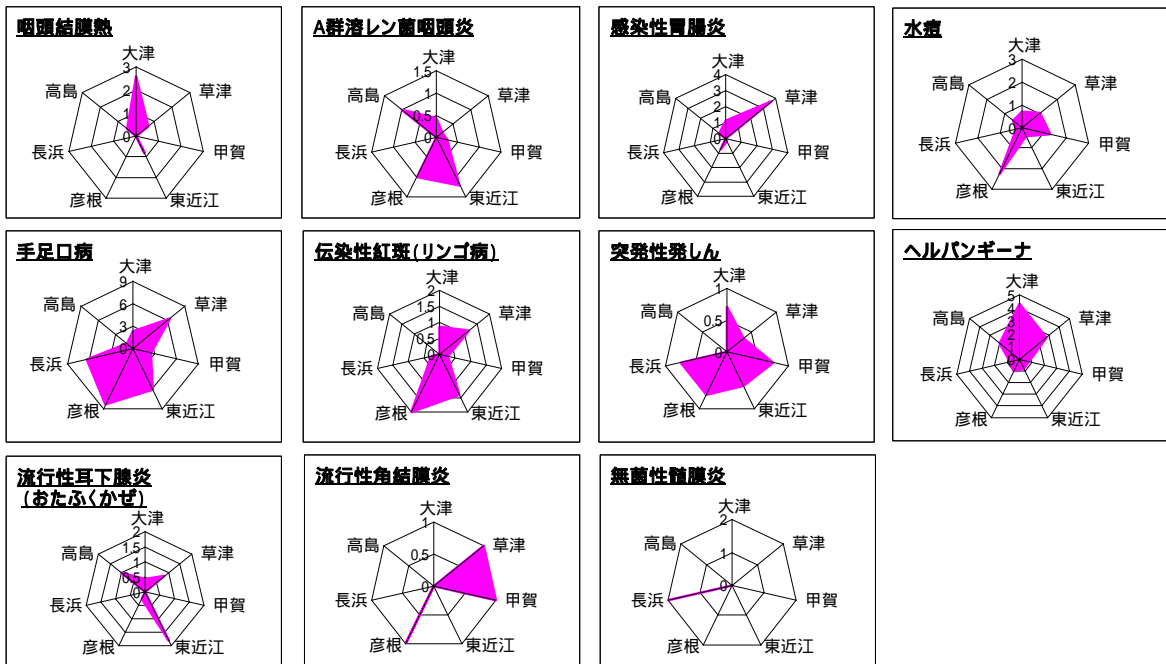
(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第30週、7/24～7/30)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況 (県全体)
	県	大津	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
咽頭結膜熱	0.84	2.57	0.67	0	0.80	0	0	0.50	■
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.43	0.17	0.25	1.20	1.00	0	1.00	■
感染性胃腸炎	1.09	1.14	3.67	0	0.20	0.75	0	0.50	■
水痘	0.91	0.71	1.00	1.25	0.40	2.25	0.25	0.50	■
手足口病	4.81	2.29	6.33	2.50	6.00	8.25	6.25	1.00	■
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.94	0.86	1.17	0.25	1.40	2.00	0.25	0	■
突発性発しん	0.59	0.71	0.33	0.75	0.60	0.75	0.75	0	■
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0	
ヘルパンギーナ	2.00	4.29	2.67	0.75	0.80	1.00	0.75	2.00	■
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.63	0.43	0.83	0	1.80	0.25	0	1.00	■
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	0.43	0	1.00	1.00	0	1.00	0	0	■
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
無菌性髄膜炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0	■
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	

■ は定点当たり患者数が先週より増加、■ は定点当たり患者数が非常に多い状態

0 1 2 3 4 5  
定点当たり患者数(人)

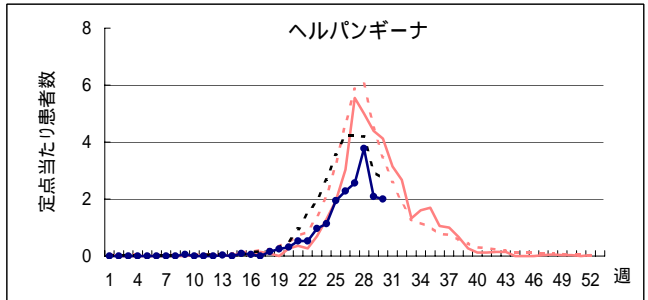
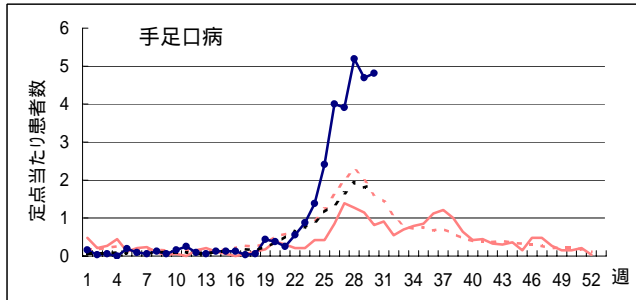
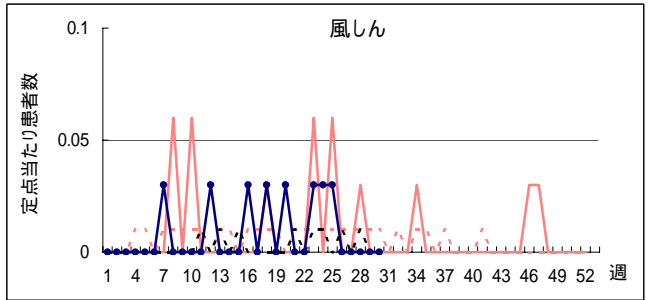
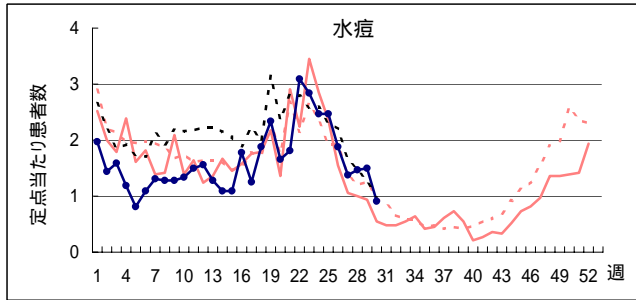
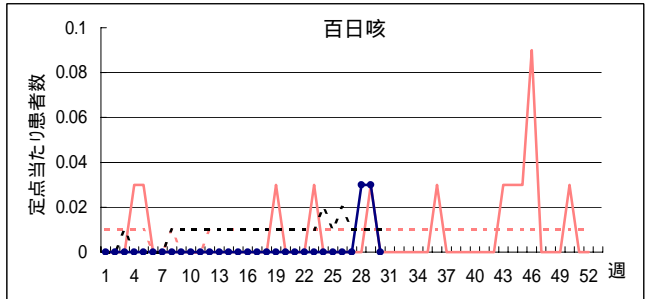
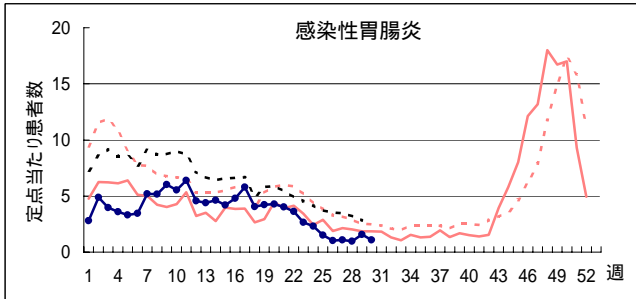
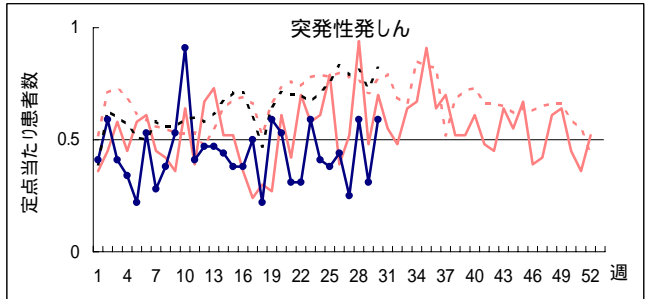
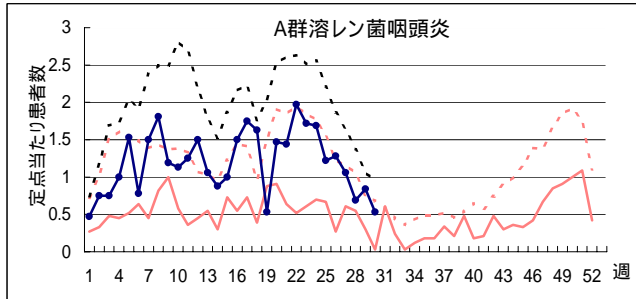
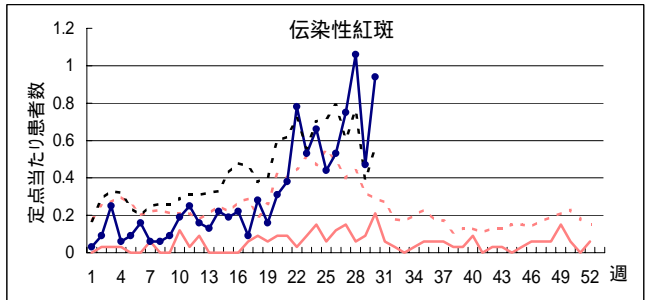
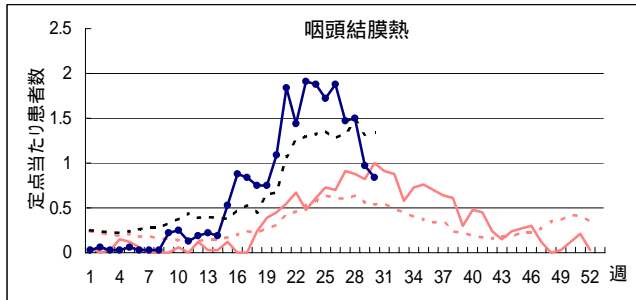
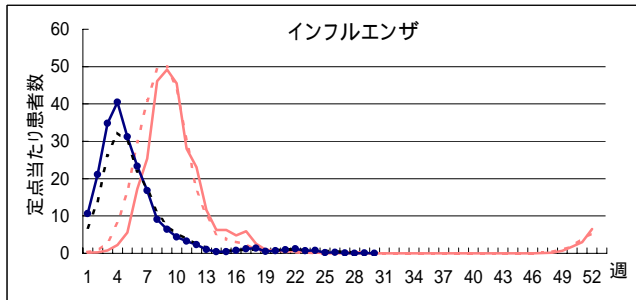
疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況：保健所管内別定点当たり患者数

- インフルエンザ-----全ての保健所から報告はありません。
- 咽頭結膜熱-----県全体では先週より減少していますが、大津では先週よりやや多くなっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎----東近江で先週よりかなり少なくなっています。
- 感染性胃腸炎-----大部分の保健所で先週より減少していますが、草津では増加しています。
- 水痘-----彦根でやや多くなっています。
- 手足口病-----草津、東近江、彦根および長浜の定点当たり患者数は非常に多くなっています。
- 伝染性紅斑-----長浜および高島以外で先週より多くなっています。
- 突発性発しん-----草津、彦根および高島以外で先週よりやや多くなっています。
- ヘルパンギーナ-----県全体では先週とほぼ同じですが、大津ではかなり増加しています。
- 流行性耳下腺炎-----彦根では先週よりかなり減少していますが、東近江では増加しています。
- 流行性角結膜炎-----草津、甲賀および彦根から報告されています。
- 無菌性髄膜炎-----先週に引き続き長浜から報告されています。

# 疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第30週、H18.1.2～H18.7.30)



疾病別定点当たり患者数(平成18年第1週～第30週、H18.1.2～H18.7.30)

H17 { 滋賀 ————  
全国 - - - - -

H18 { 滋賀 ●——●  
全国 - - - - -

